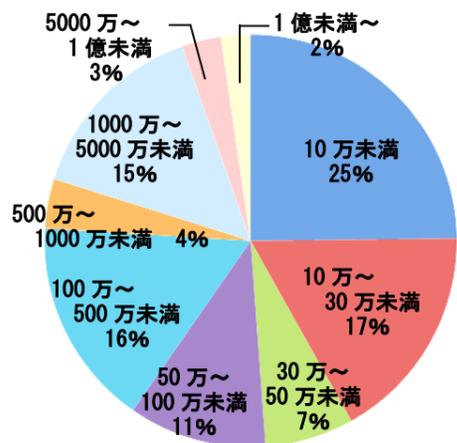


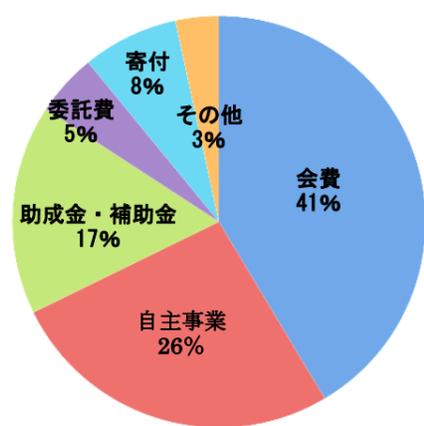
八王子の市民活動アンケート結果 (N=170)

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。八王子の市民活動団体 420 団体にアンケートを依頼し、170 件の回答がありました。このページでは、アンケート調査の全てを掲載することが出来ませんので、ごく一部の概要のみ掲載致します。皆さまからいただいたアンケート結果は貴重な資料として、今後の支援センターの運営や市民活動団体サポートに活かしていくつもりです。紙面の都合でグラフの解説等は省略いたします。

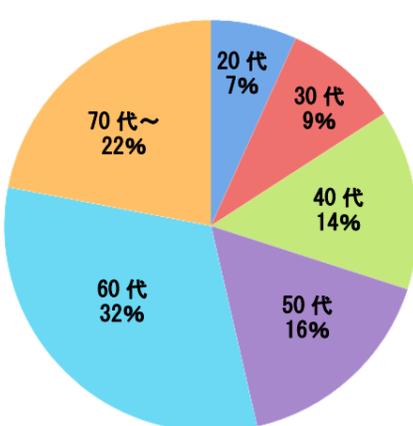
● 市民活動団体の事業規模



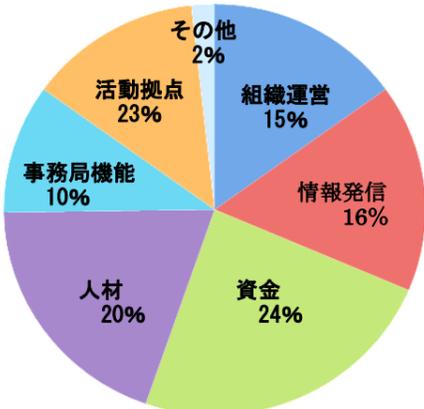
● 事業収入の割合



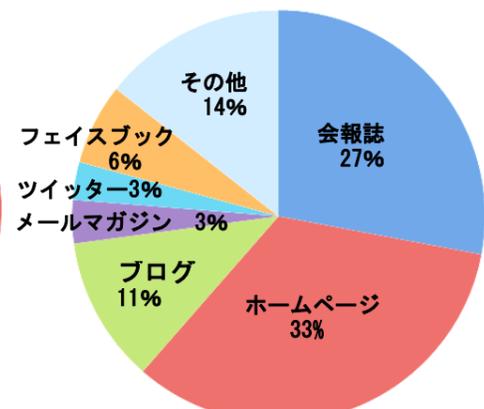
● 運営スタッフの年齢



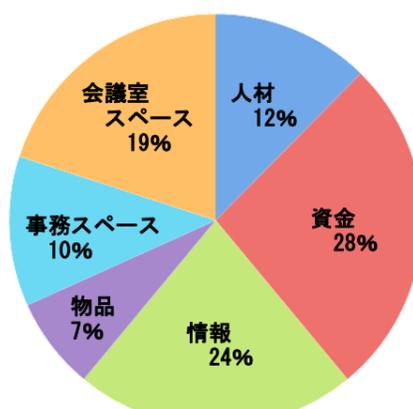
● 団体が課題になっていること



● 情報発信の方法



● どのような支援が必要ですか



● 自由意見

- 町会の会館を利用させてもらって体験講習を開き、地域の方に楽しんでもらい、出身地のわら細工のことなどを話してもらい、交流を語りたい。
- 会員が常時集まれる場所があれば、能率的な活動ができる。
- 活動資金が不足。当団体は障害児を持つ母親たちの集まりのため、融資など多額の資金調達はできない。そのため、店舗や活動拠点が持てず、事業拡大になかなかつながらない。
- 運営委員の高齢化が課題。全て自費のボランティア活動のため、経済的・時間的余裕がないと難しい。活動成果もなかなか具体的ににならないので、活動に魅力がないかも知れない。
- 役員、理事の高齢化が課題。若手の人材育成が必要。後継者不足。
- 事務所が持てないが、賃料の補助などの制度があると良い。
- コミュニティビジネス育成とはいえず、研修施設等で公的な施設を借りることが、利益を生むのではとこのことになかなか出来ないのが現状。ボランティアとは別にコミュニティビジネス育成のために低額な貸出室があるとありがたい。



アンケートへのご協力、ありがとうございました。アンケートの結果は、紙面の関係上すべてを掲載できないため、ホームページに掲載する予定です。



特集号 八王子市民活動事情

八王子市民活動支援センター
〒192-0063 八王子市旭町12番1号ファルマ802ビル5階
電話: 042-646-1677 FAX: 042-646-1687
メール: ope802@shuicenter-hachioji.org
URL: http://www.shuicenter-hachioji.org/

まちを支える市民活動の可能性

～「今」と「これから」を多いに語る～

参加者

- | | |
|------------|---------------------------|
| 板垣美保子さん | (特)子どもネット“八王子” |
| 吉田恭子さん | (特)エンツリー |
| 高井大輔さん | チャレンジから始まる地域の元気 ISSE |
| 炭谷晃男さん | 八王子子どもの居場所づくりプロジェクト『タマリバ』 |
| 塩谷暢生さん | 里山農業クラブ |
| 支援センタースタッフ | (植村・川久保・兒嶋・関・辻村) |
| 司会 大山健三 | (支援センター・センター長) |



司会：今日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。八王子の市民活動の現状やこれからのあり方についてお話をさせていただきたいと、日頃から精力的に活動をされている皆様にお集まりいただきました。まずは、皆様の活動をご紹介します。

高井さん：若者と地域の魅力ある大人を結び付けて、勉強会や地域課題を一緒に考える「ISSE」を運営しています。

板垣さん：家庭支援を目的に活動しています。子ども電話相談や、八王子市親子ふれあい広場の運営をしています。

塩谷さん：里山保全活動を農業中心に行っています。畑、田、雑木林、炭焼きとなんでもします。

吉田さん：女性支援を目的に活動しています。八王子市親子つどいの広場堀之内を運営、堀之内駅前に、いろいろな用途で使える場「クオレ」をオープンさせました。

炭谷さん：子ども達に色々な経験をさせたいと、子どもの居場所づくり「タマリバ」を運営しています。

キーワード：課題「人・もの・金・場所」

司会：皆さん、活動の分野は違いますが、地域課題の解決を目指しているところは共通していますね。活動を通し、課題と感じていることや、共有したいことなどについて、

お聞きしたいと思います。

炭谷さん：一般的に市民活動の課題としてよく言われるのは、人・物・金それに場所。私たちは、幸い人には恵まれました。活動の立上げ時は、八王子市市民企画事業補助金を利用し、場所も家庭の電話を使う程度だったので必要ありませんでした。ただこれからは、この4つの課題をどう乗り越えていくかが問題だと思っています。

板垣さん：地域に根差すことを目的に、地域の人に支援者になってもらい、スタートしました。阪神淡路大震災の頃は、ボランティアも多くいた時期で、かなり華々しいスタートでした。12年経った今、自分たちで得たもので、活動を広げていきたいと思っているのですが難しいですね。人もなかなか集まらなくなっています。やはり人材、資金の面が課題です。

吉田さん：資金面は、本当に大変ですね。行政や企業の状況も厳しく、助成金、補助金はとてもシビアです。考えれば、応募する団体が増えているということだと思います。市民活動の広がりが、財政難を招くということでしょうか。私たちは、当初から無償ボランティアは考えていませんでした。持ち出しはせず、交通費と食事代ぐらい、で

2 頁に続く→

期待される市民力 ステージアップに向かって

まもなく10周年を迎える「八王子市民活動支援センター」が開設された平成15年は、八王子の市民活動元年とも言われております。もちろん、それ以前から様々な市民活動はありましたが、行政が市民活動の必要性を認識し、制度的な支援に着手した時であったという意味で、画期的な年であったのではないのでしょうか。

以降、様々な市民活動が立ち上がり、地域課題解決への取組がなされてきました。

しかし、その道は決して平坦ではなく、人材、資金、情報等多くの問題を抱えながら試行錯誤の道のりが続いています。また、様々な要因で、単独では課題解決が難しくなったり、ニーズに十分応えられていないなど、多様な団体が連携し、協働することも求められています。

一方、平成23年の東日本大震災をきっかけに、市民活動を取り巻く環境は大きく動きました。行政だけでは成し得ない課題解決には、地縁組織、ボランティア、市民活動団体に多くの期待が寄せられました。そして、寄付税制、NPO法の改正は、市民活動の社会的認知をさらに前進させる可能性と同時に透明性や健全性等の資質の向上を求めています。

そんな中、当支援センターでは、アンケートによる市民活動実態調査や、様々な分野の方々にお集まり頂き、どのように地域の課題解決に向きあい、その目的を実現して行くのか等語って頂く座談会を開催しました。今回の特集号ですべてを表現できるわけではありませんが、市民力としての市民活動の今後を考えるうえで何かのきっかけになれば幸いです。

支援センター長 大山 健三

